

### 37. 髄膜炎を伴った帯状疱疹（左三叉神経第 I・II 枝中心）の 1 例

（第 2 病院内科・神経内科）

○本多 祥之・富田 崇敏・多賀谷 茂・  
熊田 徹平・目黒 雅俊・会川真理子・  
原田 健司・安倍 紀子・新井知恵子・  
小泉 澄子・高宮 将子・安孫子 惇・  
渡辺 晴雄

帯状ヘルペスは、末梢知覚神経の皮膚支配に一致して、疼痛、水疱形成をきたす一般的なウイルス感染症である。しかし、その中枢神経障害の合併は少ない。1896 年 Brissaud が 3 例を最初に報告して以来、帯状ヘルペスの中枢神経障害出現への機序および治療につき種々検討されているが、未だ画一的なものはない。今回われわれは、25 歳男子例で、左三叉神経第 I・II 枝を中心とした帯状疱疹に始まり、髄膜炎症状を呈し、髄液所見にて細胞数 1952/3、蛋白 1,550mg/dl と著明な上昇を示す無菌性髄膜炎で、左顔面部からのウイルス分離に成功し、また治療上、その抗ウイルス作用が認識され、ヘルペスウイルス群感染症への臨床応用が活発になつている Cytosine arabinoside を併用し、皮膚症状の消退、髄液所見の改善、後遺症（post-herpetic neuralgia）もなく経過した 1 例を経験したので、若干の考察を加えて報告した。

### 38. 女子医大第 2 病院外科における脳卒中例について

（第二病院外科）○井上 久司・尾崎 進・  
川田 裕一・成味 純

第 2 病院外科において、1966 年 1 月より 1967 年 6 月までの 1 年 6 カ月間に、くも膜下出血を中心とする脳卒中にて入院した患者は 32 例である。その分類は、脳動脈瘤 14 例、脳動静脈瘻 3 例、特発性脳内血腫 1 例、高血圧性脳内血腫 2 例、ウイルス輪閉塞症 2 例、その他 10 例である。

脳動脈瘤については、全例に直達手術を行ない、死亡 1 例を除き、完全に治癒せしめ社会復帰している。内頸動脈瘤 7 例、前交通動脈瘤 1 例、中大脳動脈瘤 3 例、脳底動脈瘤 2 例、内頸動脈瘤と中大脳動脈瘤の重複例 1 例である。重症度分類からみると（Hess & Hunt）I 度 3 例、II 度 3 例、III 度 1 例、IV 度 4 例、V 度 1 例である。V 度の例については残念ながら、術後脳浮腫にて失つている。手術顕微鏡の導入により、術中破裂の例は V 度の 1 例のみであり、他の 13 例は直達手術に成功している。

特発性脳内血腫の例は、右前頭葉内に mass lesion を見、血管撮影でも小血管腫様陰影を認め、血腫を含め摘

出に成功している。病理学的診断では小動静脈瘻である。

高血圧性脳内血腫については、関連各科、病院において比較的手術効果の良いとされている、lateral type をえらび、2 例に手術を行ない良好な結果を得ている。

ウイルス輪閉塞症については、1 例は両側性の teleangiectasis 様の血管撮影所見を示しており、1 例は全く片側性のものである。両例共、抗 plasmin 剤を中心とする薬物療法のみで経過観察中であるが、くも膜下出血の再発はみえていない。

以上の症例について、2、3 検討を試みた。

### 39. 当院における片麻痺のプログラム

（中央リハビリ）○上和田裕美・佐藤 淳子

当院でリハビリテーションを受けている患者は、リハビリ開始が年々早期になつて来ており、疾患中では片麻痺にこの傾向が強い。

そのために、当リハビリテーション部にも、片麻痺患者へのアプローチの変化が、他の疾患より急速であるように思える。

片麻痺患者に 5～6 年前であれば、できるだけ早く立つて歩かせるように杖や装具を装着しての歩行訓練が多かつたが、現在では、装具、杖利用者の激減を見る。これは現在の訓練が単に歩行という動作だけでなく、将来の日常生活範囲を最大限広げるため、基本的動作をしつかり積み重ねることで、始めて応用動作としての歩行、階段昇降、炊事、洗濯等可能にする方向性を取つているためと思われる。

また基本的動作の繰り返しはあくまでも、正常人の動きのパターンに最大限近づけることに目的があり、無理なりきみや、強い疲労、激しい痛み等により、病的反射や異常姿勢パターンを誘発することは禁止するため、適度なリラックスセッションを取り入れながら行わねばならない。そのためケースによっては、かなり長期の訓練を必要とされ、当院のみでのリハビリ終了が困難となる。

このように他のリハビリ専門病院や施設との密接なつながりがあつて、始めて最終目標達成が可能となる。

今回は、当リハビリにおける片麻痺患者へのアプローチ、プログラムを紹介していく中で、より望まれる長期リハビリの必要性を理解していただきたく思う。

#### 〔特別講演〕

#### 心疾患の自然歴

教授 広沢 弘七郎（心研内科）

心疾患にもいるいろいろある。その多くのものが慢性不治